

特別展

生誕120周年記念  
岸田劉生展  
2011年9月17日～11月23日

岸田劉生[明治24年(1891)～昭和4年(1929)]は、日本近代美術史を代表する洋画家として今日でも高い評価を得ています。代表作である東京国立博物館所蔵「麗子像」・東京国立近代美術館所蔵「切通之写生(道路と土手と塀)」は共に重要文化財であり、また美術や図画工作の教科書にも取り上げられ、日本で最も有名な画家のひとりと言えるでしょう。

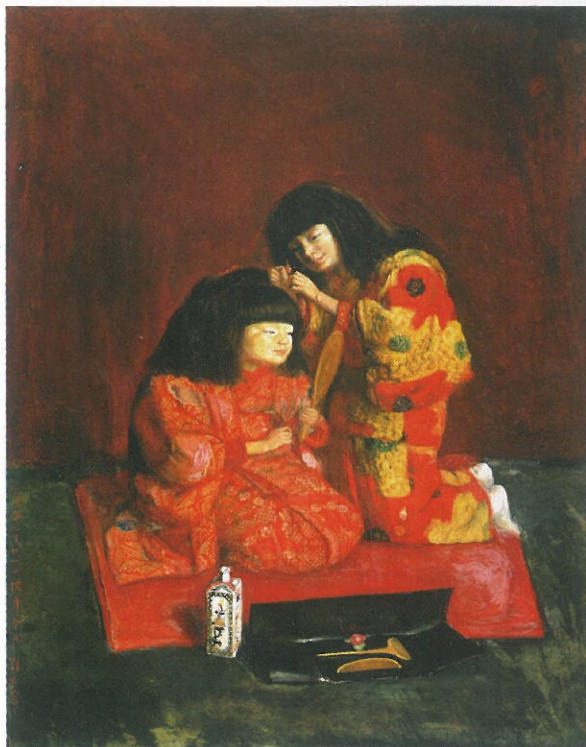
劉生は38年という短い生涯の中で、多くの作品を生みだしています。

彼は東京・銀座に生まれましたが、転居の多い人生でした。「切通之写生」を描いた代々木や駒沢を経て、転地療養のため温暖な神奈川・鶴沼へ移ります。ここで多くの「麗子像」が生まれることとなりますが、1923年の関東大震災により被災し京都へと転居します。京都では古画の鑑賞・収集に熱中し、いわゆる日本画の制作にも取りかかりました。

1926年、最後の居宅を神奈川・鎌倉に定め心機一転して制作にかかり、1929年には満洲(現在の中国東北部)旅行に向かいましたが、その帰路に山口・徳山で亡くなりました。

本展は劉生の代表作や数多の麗子像をはじめ、風景画、静物画さらにはデッサンまでおよそ240点により、劉生の人生とその画業をたどる、生誕120周年を記念した大回顧展です。ぜひご高覧下さい。

※日本画の作品を中心に、展示替えがございます。



二人麗子(童女飾) (1922年) 東京・泉屋博物館分館



初夏の小路(1917年) 山口・下関市立美術館

〈関連イベント〉

●れいこの日

10月15日(土)

重要文化財「麗子像」は、1921年10月15日に完成しました。これを記念して、当日ご来館いただいた「れいこ」さんにプレゼントを用意しています。免許証や保険証などご本人のお名前が証明できるものをご持参ください。

●記念講演会

10月1日(土)「母・麗子を巡る思い出の人々」岸田夏子氏(洋画家)

10月8日(土)「劉生の起承転結」篠 雅廣(大阪市立美術館館長)

10月22日(土)「劉生と私」酒井忠康氏(世田谷美術館館長)

11月5日(土)「おとろえぬ名声—岸田劉生」篠 雅廣

時間=いずれも午後1時30分—3時

会場=大阪市立美術館 講演会室

定員=150名(当日午後1時から整理券を配布します。先着順)

※聴講は無料ですが、本展に当日ご入場いただいた観覧券が必要です。

特別陳列

中国工芸5000年—金属器・陶磁器の多彩な表現  
2012年1月7日～2月5日

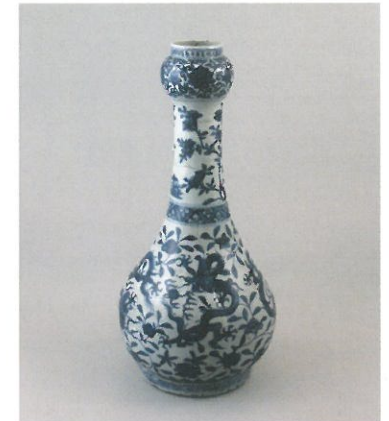
黄河流域に発達した中国文明は、様々な地域を巻き込みながら5000年の長きにわたって様々に変容し展開してきました。その足跡は、工芸品にも端的に表れています。大阪市立美術館の陳列や収集の柱の一つには中国美術があり、工芸もその一翼を担っていますが、今回は当館に所蔵・寄託されている中国工芸の名品を展覧します。新石器時代の彩陶からはじまり、商周から戦国・漢時代の青銅器、漢から唐時代の陶俑、宋代の様々な陶磁器を経て、明清時代の官窯磁器に結実する中国工芸の多彩な表現の数々をお楽しみください。



青銅 饗養文尊  
商末～西周時代初期(紀元前12～10世紀) 個人蔵



三彩 文官(部分) 唐時代(8世紀)  
本館蔵(吉村芳野氏寄贈)

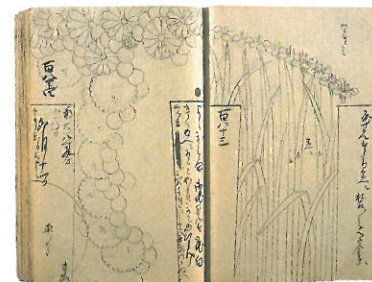


青花 龍文蒜頭瓶 江西省景德鎮窯「大明万曆年製」銘  
明代・万曆期(16世紀) 個人蔵

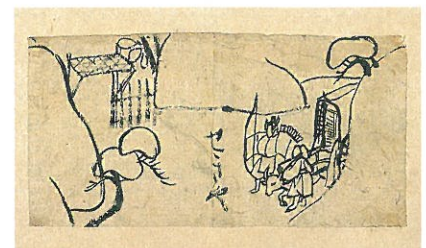
特別陳列

光琳資料ひもとく  
2012年1月7日～2月5日

尾形光琳(1658～1716)の子寿一郎の養子先である小西家に伝来した資料類の大半は、「小西家旧蔵光琳関係資料」として昭和53年重要文化財の指定を受けています。今回の展覧では大阪市立美術館(武藤金太氏寄贈)、京都国立博物館に分蔵される資料のなかから、東福門院の小袖図案など尾形家の家職である呉服商雁金屋関係資料、写生帖・画稿・時絵図案など光琳に関わる資料、光琳の父宗謙・光琳・弟乾山・子孫に関する文書などを展示いたします。



菊・燕子花・波兔の小袖図案  
衣裳図案集三冊のうちより  
(江戸時代 17世紀) 本館蔵



尾形光琳 松鶴図屏風画稿(江戸時代) 本館蔵  
尾形光琳 梅花文時絵箱図案(江戸時代) 本館蔵



尾形光琳 関屋澤標時絵印籠図案  
図案小品集一帖より(江戸時代 17世紀) 本館蔵